

# 大 入 道

むかし、横根村よこねの辺りでは、きつねがよく出て、そこを通る人たちに悪さをしていました。初めのうちは、だまされたことを笑いとばしていた村人でしたが、いたずらがたび重なるうちに、こらしめてやろうという気持ちになっていきました。

横根村の作さくどんと由よしどんは、とても気の合う仲よしです。田んぼの仕事に出かけるときも、畑仕事から帰るときも、いつもいつしよです。そんなある日、ふたりは、

「きょうは仕事が早く終わつたから、遊びに出かけるか。」

「うん。やつとかめに、泉田村いづみだにでも行こまいか。」  
と、さそい合いました。

作どんと由どんは、早めにばんご飯はんをすませると、ちようちんを持って出かけました。逢妻川あいつまの近くにきたころには、日はすっかり暮れてしまいました。辺りは暗くなつてきましたが、

「きょうは、どこの家へ行こうか。」

「そりゃあ、かわいい子のいるとこがええな。」

と、相談しながら歩いていたので、ふたりの心の中はとても明るかったのです。

そのとき突然、逢妻川の堤防の上に大入道がぬつと現れました。ふたりに向かって、おいでおいでをしているようです。

「おいおい、ありやあなんだ。」

と、作どんが大声をあげました。

「きつねめ、出やがったな。よし、つかまえてやろか。」

と、由どんは、持っていたちようちんの明かりを吹き消しました。

「ようし、やろうやろう。」

と、作どんもそれにこたえて、よしのかげにかくれながら堤防に近づいていきました。堤防の上に立った大入道は、影法師のようにすっかり見えていました。ふたりは、

「ええか作どん、わしやあ、あつちから行くで、おんしはこつちから行け。ええな。」

「うん、よしよし。そおつとだぞ。」

と、音をたてないようにして大入道に近づきました。そして、大入道を両方からつかまえ、ポカポカとげんこつでなぐりつけました。

「こらあ、いたずらぎつねめえ。しつぽを出せ。」

「このやろう。しつぽを出せ。」

と、作どんと由どんは大声でどなりつけました。

大入道はふいになぐりつけられたので、転んでしまいました。それでも、大入道はむくむくと起き上がり、

「わしは、きつねじゃないぞ。泉田の西念寺さいねんじで修業しゆぎょうをしてる坊主ぼうちうじゃ。」

といました。それでも、由どんが、

「まんだ、たぶらかそうとするのか。」

というと、大入道は、



「よく見なさい。しつぽはないじゃろう。」

と、おしりを見せました。しつぽは、ありません。

「しまった。」

と、作どんと由どんは顔を見合わせました。

「ほんとうに、おつたまげたぞ。すっかり暗くなったので困ったなあと思っていたんじゃない。そしたら、明かりが見えたんで、こりやあ助かった、いつしよに行ってもらおうと思つて手をふつたんじゃ。そうしたら、明かりが見えんようになってしまった……。こりやあおかしいなあと思つていたら、いきなりなぐられたんじゃ。おつたまげたぞ、ほんとうに……。」

という坊さんに、作どんと由どんは平あやまりにあやまり、泉田の西念寺まで送つていきました。

大入道だと思つたのは、寺で一番体の大きい坊さんでした。ふたりは、遊びに行く気持ちがすっかりなくなつて、しよぼくれて家に帰りました。

横根地区に伝わる話です。

泉田村は、今の刈谷市泉田町です。大府市の東を流れる境川は、尾張国と三河国の国境を流れることからその名がつけられています。その境川の東側を流れるのが、逢妻川です。